

NATIONAL GEOGRAPHIC

先日、カヌーイストの野田知佑さんの「ユーコン川を筏で下る」2016年、という本を読んでいたらこの雑誌の事が書かれていました。彼はユーコン川を既に20回ほどカヌーで下っています。今回は筏を作製して下ったのですが、そのきっかけになったのが1975年12月号の「Rafting Down the YUKON」という記事だったということです。彼はもう79歳だそうですが、お元気そうです。相変わらずウイスキーを呑みながら川遊びを楽しんでいます。

私がこの雑誌を初めて読んだのは20代です。当時は日本語版がまだなくて、私はWASHINGTON、D・Cの本社から郵送してもらっていました。この雑誌の素晴らしい所は第一に写真です。世界中の自然や文化や探検などの迫力ある写真が載せてあります。この写真を眺めているだけでその世界に運ばれていく楽しみを感じます。

毎号5本の記事が載せてあります。世界中から驚くような記事を集めて毎月こんな魅力的な雑誌を作るのは凄い出版社です。第二に付録に地図が付いてくるのです。その地図が素晴らしい。「PACIFIC OCEAN FLOOR」や「MOUNT EVEREST」の地図は今でも持っています。USAにはこんな素晴らしい雑誌を作る会社があるというだけで憧れました。私が1982年にインドのラダック・レーに行こうと思ったのもこの雑誌を読んだことがきっかけでした。この雑誌には旅のヒントが沢山詰まっています。

黄色い表紙のこの雑誌はゲストハウスを巡ると、けっこう置いてあります。今年スコットランドで泊まったGHにも置いてありました。旅先のGHでこの黄色い表紙の雑誌に出会うと何だかほっとします。30年ほど前に「植村冒険館」に行ったことがありました。ここにナショジオが展示してありました。植村直巳さんが一人で北極点に到達した「SOLO TO THE NORTH POLE」の記事が載っていた号です。植村直巳さんの「世界単独行で最初に北極点に到達した」記事がこの雑誌に載っていることを当時知らなかったので驚きました。1978年9月号です。

その後、早稲田の古本屋を歩いていてナショジオを探すと、ある日1978年9月号を見つけました。感動でした。一冊100円でした（写真参照）。この記事で植村さんの事が世界中に知れ渡ったのです。私の手もとにはお気に入りの10冊ほどしか残っていませんが、付録の地図は取ってあります。今では図書館で借りたり、本屋で立ち読みをする程度ですが日本語版の迫力も英語版と変わりません。これからも自分の旅のヒントやトレッキングのヒントになるような記事が見つければいいなと思っています。

NATIONAL GEOGRAPHIC SOCIETY WASHINGTON, D.C.

(2017年11月、ふかざわ ゆ)

